

## ライフステージの変化と男女の幸福度

亀坂安紀子\*

吉田恵子†

大竹文雄‡

### 要約

本稿の目的は、結婚や出産といったライフステージの変化が人々の幸福度や充実度に及ぼす影響について、日本と米国のデータを使用したパネルデータ分析によって明らかにすることである。分析の結果、日本と米国のデータで共通して、配偶者の存在は個人の幸福度や充実度に非常に大きな影響を与えており、かつそのような傾向は男女の別にかかわらず観測されることが示される。また、日本と米国のデータで共通して、健康状態も人々の幸福度や充実度に大きな影響を与えており、求職中の人や喫煙者は、幸福度や充実度が低いことも示される。

しかし、子供の存在に関する推定では、日本の結果と米国の結果に大きな違いが生じている。日本人の場合、子供がいないと幸福度や充実度が低いという結果が得られたが、米国の結果からは、必ずしもそのような事実は観測されない。労働参加に関しても、日米で若干異なる結果が得られている。

JEL 分類番号 : I31

キーワード : 幸福の経済学、幸福度、ライフステージの変化

---

\*青山学院大学経営学部 E-mail : akiko@busi.aoyama.ac.jp

†桃山学院大学経済学部 E-mail : kyoshida@andrew.ac.jp

‡大阪大学社会経済研究所 E-mail : ohtake@iser.osaka-u.ac.jp

## 1. はじめに

幸福度の経済分析は 1990 年代後半から本格的に始まり、現在急速に研究の蓄積が進んでいる (Frey and Stutzer, 2002)。本稿の目的は、結婚や出産といったライフステージの変化が人々の幸福度に及ぼす影響について、日本と米国のデータを使用したパネルデータ分析によって明らかにすることである。日本の国勢調査によれば、1970 年代後半から男女各年齢層で未婚率が急上昇し、2005 年には、30 歳代前半の男性でも未婚率が 5 割に近づき、20 歳代後半の女性の未婚率も約 6 割となっている。こうした未婚率の上昇は少子化の一要因ともとらえられる。

本稿では、大阪大学が実施しているパネル調査のデータを使用して、人々の幸福度や充実度について分析している。具体的には、「あなたは普段どの程度幸福だと感じていますか」という質問への回答を幸福度の指標とみなし、また、「日頃の生活の中で充実感を感じている」という質問への回答を充実度の指標とみなして、その決定要因を分析している。

分析結果は以下にまとめられる。幸福度を被説明変数とした分析から、配偶者のいる人、小さな子供がいる人の幸福度が高いが、これらの説明変数が充実度へ与える影響は観察されなかった。健康状態をあらわす変数や求職ダミー、後回しに関する変数は、幸福度、充実度に同じような影響を与えており、健康な人、求職中でない人、後回し行動を取らない人のほうがより幸福度が高く、日々の生活から充実感を得ていることが示される。労働参加している人は幸福度こそ低いものの、充実感はある傾向にある。

## 2. データ：「くらしの好みと満足度についてのアンケート」調査

本稿の分析に用いるデータは、2004 年 2 月から大阪大学 21 世紀 COE プログラムが実施している「くらしの好みと満足度についてのアンケート」調査に対する回答である。この調査は、行動経済学的な分析を目的として行われており、日本における調査については、2004 年 2 月の調査では 20 歳以上であった 6000 人の個人に対して行われ、4224 人の回答を得ている。本稿の分析は 2005 年から 2010 年までのデータを用いている。この調査では、幸福度について以下のような質問項目を設けている。

全体として、あなたは普段どの程度幸福だと感じていますか。「非常に幸福」を 10 点、「非常に不幸」を 0 点として、あなたは何点ぐらいになると思いますか。当てはまるものを 1 つ選び、番号に○をつけてください。

本稿ではこの質問への回答を個人の幸福度の指標とみなして分析を行う。また、充実度に関しては、「日頃の生活で充実感を感じている」という質問項目にぴったり当てはまる、

と答えた個人に 1 を、全く当てはまらないと答えた個人に 5 を付与した順序変数を使用して分析を行う。

この幸福度の指標について、既婚者、未婚者ごとに日本と米国の男女別の年齢による推移をみると、それぞれ図 1、図 2 のようになっている。

図 1：年代別幸福度(日本)

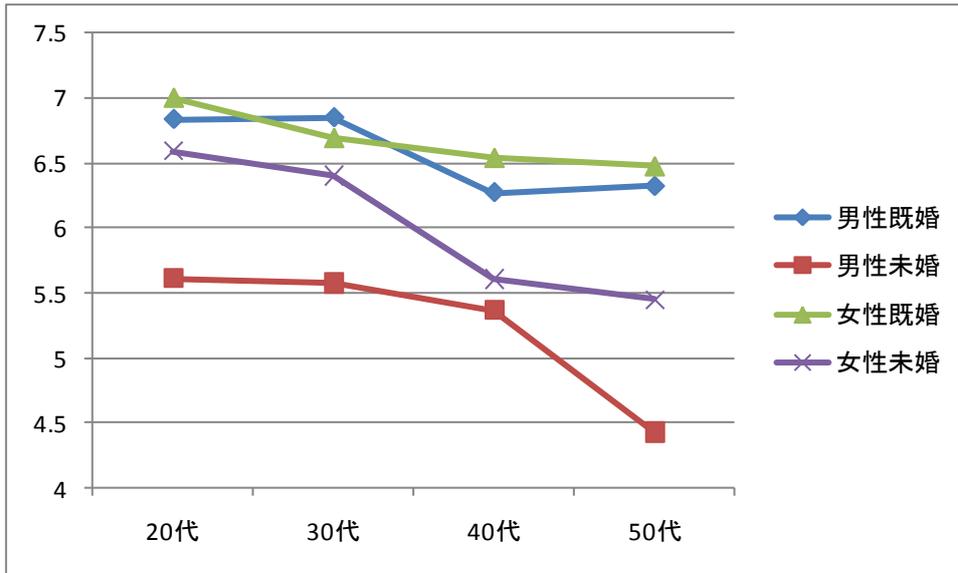
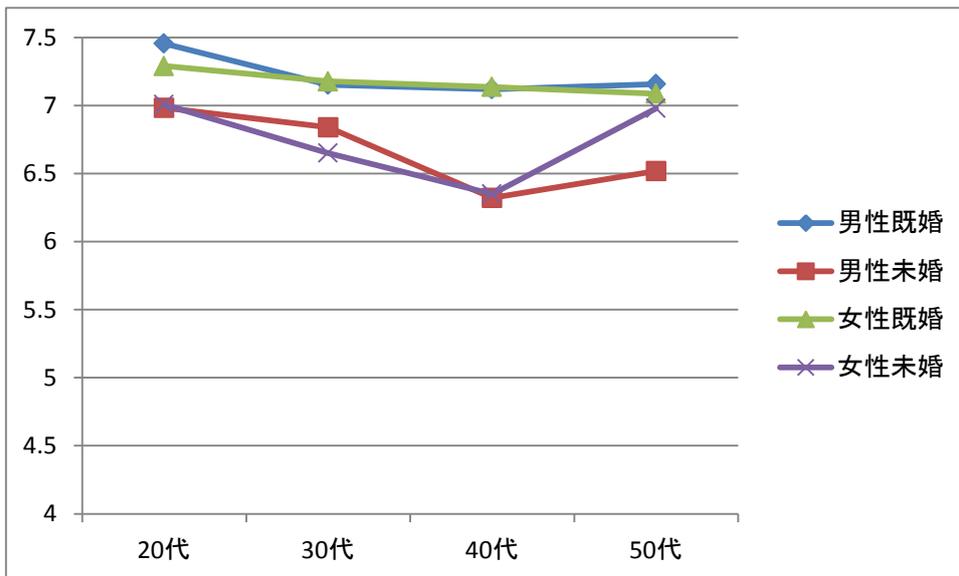


図 1：年代別幸福度(米国)



この図から、日米両国において、全ての年齢層において未婚者よりも既婚者のほうが幸福度が高いことがわかる。特に日本男性で未婚のグループの幸福度は低い値をとっている。

### 3. 推定結果

表1では日本のデータにより推定結果を、表2では米国のデータによるパネルデータ分析の結果を表している。順序ロジットモデルを採用し、個人効果は固定効果を仮定している。

表1: 順序ロジットモデルの推定結果(日本)

幸福度	男性		女性	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差
年齢	-0.098	0.025 ***	-0.021	0.028
年齢二乗	0.001	0.000 ***	0.000	0.000
未婚	-1.656	0.179 ***	-0.954	0.199 ***
離別	-1.908	0.217 ***	-1.049	0.169 ***
死別	-2.079	0.251 ***	-1.033	0.162 ***
家族人数	0.048	0.030	-0.025	0.029
子供なしダミー	-0.325	0.153 **	-0.093	0.166
末子0.2歳	0.398	0.140 ***	0.803	0.134 ***
教育年数	0.151	0.017 ***	0.218	0.021 ***
労働参加	-0.124	0.112	-0.169	0.069 **
求職ダミー	-0.688	0.075 ***	-0.476	0.069 ***
一人当たり年収(100万円)	0.147	0.016 ***	0.129	0.016 ***
飲酒行動	-0.005	0.029	0.022	0.031
健康状態	0.299	0.028 ***	0.351	0.028 ***
喫煙行動	-0.009	0.014	-0.060	0.017 ***

充実度	男性		女性	
	係数	標準誤差	係数	標準誤差
年齢	-0.133	0.025 ***	-0.151	0.026 ***
年齢二乗	0.001	0.000 ***	0.002	0.000 ***
未婚	-1.077	0.172 ***	-0.568	0.186 ***
離別	-1.051	0.220 ***	-0.435	0.166 ***
死別	-0.644	0.345 *	-0.396	0.162 **
家族人数	-0.029	0.029	-0.047	0.028 *
子供なしダミー	-0.342	0.149 **	-0.452	0.157 ***
末子0.2歳	0.259	0.153 *	0.180	0.142
教育年数	0.119	0.017 ***	0.123	0.021 ***
労働参加	0.113	0.113	0.160	0.073 **
求職ダミー	-0.770	0.080 ***	-0.650	0.073 ***
一人当たり年収(100万円)	0.116	0.017 ***	0.076	0.019 ***
飲酒行動	0.042	0.028	0.016	0.033
健康状態	0.328	0.030 ***	0.444	0.030 ***
喫煙行動	-0.030	0.015 **	-0.048	0.019 **

注:\*\*\*は1%水準、\*\*は5%水準、\*は10%水準で有意であることを示している。\*

表1、表2の推定結果を以下にまとめる。ほぼすべての推定において、年齢とその二乗項の係数がそれぞれ負と正で有意であった。このため、年齢を横軸に幸福度と充実度をそれぞれ縦軸にとったグラフの形状が逆U字型であることがわかる。

求職ダミーがすべての推定において負の値で有意であり、職を求めるといった状態が人々

の幸福度や充実度を引き下げていることが示される。

表2: 順序ロジットモデルの推定結果(アメリカ)

幸福度	男性			女性		
	係数	標準誤差		係数	標準誤差	
年齢	-0.043	0.013	***	-0.028	0.013	**
年齢二乗	0.000	0.000	***	0.000	0.000	***
未婚	-0.529	0.119	***	-0.296	0.115	***
離別	-0.422	0.130	***	-0.299	0.112	***
死別	-0.816	0.205	***	-0.500	0.155	***
家族人数	-0.042	0.019	**	0.019	0.018	
子供なしダミー	-0.006	0.110		0.175	0.104	*
末子0.2歳	-0.012	0.110		0.026	0.099	
労働参加	-0.231	0.098	**	-0.229	0.083	***
求職ダミー	-0.428	0.107	***	-0.633	0.105	***
一人当たり年収(10,000ドル)	0.008	0.010		0.034	0.013	***
飲酒行動	-0.064	0.031	**	-0.053	0.034	
健康状態	0.375	0.031	***	0.445	0.031	***
喫煙行動	-0.041	0.018	**	-0.056	0.018	***

充実度	男性			女性		
	係数	標準誤差		係数	標準誤差	
年齢	-0.045	0.014	***	-0.015	0.013	
年齢二乗	0.000	0.000	***	0.000	0.000	
未婚	-0.354	0.121	***	-0.233	0.118	**
離別	-0.369	0.133	***	-0.036	0.116	
死別	-0.390	0.207	*	-0.103	0.164	
家族人数	-0.056	0.020	***	0.018	0.020	
子供なしダミー	-0.210	0.113	*	-0.036	0.108	
末子0.2歳	0.137	0.112		0.032	0.103	
労働参加	-0.074	0.100		-0.180	0.086	**
求職ダミー	-0.296	0.108	***	-0.574	0.108	***
一人当たり年収(10,000ドル)	0.009	0.010		0.038	0.014	***
飲酒行動	-0.066	0.032	**	-0.053	0.035	
健康状態	0.340	0.032	***	0.335	0.031	***
喫煙行動	-0.036	0.018	**	-0.076	0.019	***

注:\*\*\*は1%水準、\*\*は5%水準、\*は10%水準で有意であることを示している。\*

幸福度を被説明変数とした推定結果から、未婚ダミー、離別ダミー、死別ダミーが負で有意であり、配偶者いないと幸福度が低いことがわかる。子供なしダミーについては、日本と米国で異なる結果が得られている。日本の推定結果では子供なしダミーがほとんどの場合に負で有意であり、子供がいないことが日本の人々の幸福度と充実度を引き下げていることが示される。しかし、米国の推定結果では、女性の幸福度の推定結果において子供なしダミーがむしろ正で有意であり、子供のいない女性のほうが幸福度が高いということになる。また、充実度を被説明変数とした推定結果について、日米に差がみられる。このような米国の女性の幸福度と子供の存在に関する分析結果は、大竹・白石・筒井(2010)の

結果と整合的である。

健康状態が良いことについては、すべての推定結果において正の値で有意であった。また喫煙行動についても日本男性の幸福度の推定結果を除いてすべて負の値で有意であった。健康状態が良いと感じる人のほうが幸福度や充実度が高く、喫煙行動をとる人のほうが幸福度や充実度が低い傾向にあることが示されており、直観と矛盾しない結論が得られている。労働参加については、日本の女性の推定で興味深い結論が得られており、幸福度の推定では負で有意だが、充実度の推定では正で有意となっている。つまり、労働参加は日本の女性の幸福度を引き下げるものの充実度は向上させると考えられる。

#### 4. おわりに

本稿は、結婚や出産といったライフステージの変化が人々に及ぼす影響について日米のパネルデータを用いて分析した。分析の結果、配偶者のいる人、健康状態が良いと感じる人が幸福度や充実度が高いことがわかった。求職や喫煙は、個人の幸福度や充実度を引き下げている。

配偶者のいない人、とりわけ未婚の人は幸福度や充実度が低いことが明らかとなった。このため、夫婦別姓を認めることや連帯民事契約の導入などで結婚に対する敷居を低くすることによって人々の幸福度や充実度を高められる可能性が示唆される。

今後の課題として、本人と配偶者の労働時間を考慮した分析と、中国とインドでの調査を用いた分析との比較を挙げる。

#### 引用文献

Bruno S. Frey and Alois Stutzer, 2002. What Can Economists Learn from Happiness Research?. *Journal of Economic Literature* 40, 402-435.

大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著, 2010 『日本の幸福度— 格差・労働・家族』 日本評論社.